



杉並区

ちょっとナツかしい、ナツの記憶

2 . 7 . 2 2  
杉並区広報課

## 企画展「すぎなみ夏日記 あの日見たナツモノたち」

杉並区立郷土博物館（大宮1-20-8）では、7月18日より企画展「すぎなみ夏日記 あの日見たナツモノたち」を開催しています。

エアコンがまだ普及していなかった頃、昔の人たちは夏をどのように過ごしていたのでしょうか。うちわや扇風機で暑さをしのぎ、風鈴や金魚鉢を置くことで、聴覚や視覚で涼を感じていました。網戸がないので蚊帳も必需品で、そのほかにも「よしず」や「すだれ」、打ち水など、いろいろな工夫をして、夏をできるだけ涼しく過ごしてきました。

本展覧会はそんなちょっと「ナツかしい」時代に使われていたナツの道具を、今も昔も夏休みの宿題の定番である絵日記風に仕立てて展示します。実際に見たことのある方には懐かしさを、そうでない方にも、絵日記と併せ観ることで、当時の生活を感じていただける展示となっています。

担当者は「日記は古くは平安時代にも書かれていて、それぞれの時代のその時々の様子を知ることができます。この展示で、当時の子どもたちの日記に込められた思いを感じながら、ひと昔前の夏の遊びや暮らしを楽しんでいただければ。」と話していました。



企画展の様子



当時の小学生の絵日記（昭和18年）

### 企画展「すぎなみ夏日記 あの日見たナツモノたち」

【日 時】7月18日（土）～9月6日（日）午前9時～午後5時  
（休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館）、8/11、8/20）  
【会 場】杉並区立郷土博物館（大宮1-20-8）  
【観覧料】100円（中学生以下は無料、20名以上の団体は1人80円）

#### 【問い合わせ先】

杉並区立郷土博物館：03-3317-0841  
総務部広報課：03-3312-2111（代表）